

FRUITO テン フルー10

年齢：6歳以上、7歳以上、9歳以上用のルールがあります。

人数：2～5人

時間：約10～15分

セット内容：裏が青のカード 35枚
裏が黄のカード 15枚



ゲームのあらすじ

2枚の果物カードから、合わせて「10」になる組み合わせを探して、誰よりも早くカードを取りましょう。一番多くカードが取れたプレイヤーが勝ちです。

裏が黄のカードは合わせて「5」の組み合わせを探すと「フルー5」ができます。

基本的な遊び方(7歳以上)

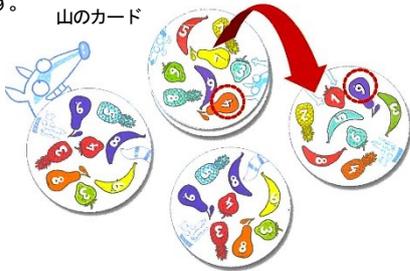
ゲームの準備

各プレイヤーはカードを裏返しのまま1枚ずつ受け取り自分の前に置きます。残りのカードは表向きに山にして場の中央に置きます。

ゲームの手順

カードを配ったプレイヤーの「スタート！」の掛け声で、一斉に各自のカードをめくり、自分のカードと場の山の1番上のカードを見比べて、足した合計数が「10」になる組み合わせを探します。

山のカード



<「10」の作り方>

プレイヤーは2枚のカードから、2個以上の果物で合計10を作ります。

・それぞれのカードから1個ずつ、もしくは1枚のカードからは2個、もう1枚から1個選びます。(2枚のカードから少なくとも1個以上選ぶなくてはけません。)

・**同じ果物** (バナナで7個と3個など) か、**同じ色** (緑の果物で2個と8個など) のどちらかで10を作ります。

<「10」を見つけたら>

合計が10になったら「ハイ」と言い、どんな組み合わせで「10」を作ったのかをみんなに伝えます。例えば、同じ種類の果物の場合なら「いちごが10」「洋ナシが10」、同じ色の場合は「緑が10」「赤が10」と言います。



“赤が10!”
2つの赤い果物「4と6」で「10」になる時は、カードの中にもう1つ赤い果物「7」があっても、それは数えなくていいです。

“パイナップルが10!”
2枚のカードから2つ以上のパイナップルを組み合わせて「10」にしてもいいです。

・正しく「10」を作ることができたプレイヤーは、場の山の1番上のカードをもらい、自分のカードの上のせます。

これで山のカードが新しいものに替わりました。そのままゲームを続けて「10」になる組み合わせを探しましょう。

※「10」を作ったプレイヤー以外は、手元のカードは変わりません。

ゲームの終了と勝者

・場の山のカードが無くなったならゲームは終了です。一番多くカードを取ったプレイヤーが勝ちとなります。
ここに記入

追加のルール

山のカード



<小さい方のルール> (6歳位～)

数字を習い始めたばかりの子どもでもまだ足し算を習っていないでも遊ぶ事ができます。

ゲームの手順

同じ果物か同じ色で、同じ数字の果物のペアを探します。

ペアを見つけたプレイヤーは「ハイ」と言って、「パイナップルの7」、「紫の9」などと言います。

<『フルー10』の基本ルールを簡単にすることもできます>

親となる人が、各プレイヤーに2枚ずつカードを配ります。各自その2枚のカードから合計して「10」になる組み合わせを探します。「10」を見つけたプレイヤーは、親にどんな組み合わせなのかを伝えます。正しい場合はそのカード2枚をもらう事ができます。そして新しいカードを2枚もらいゲームを続けます。一番たくさんカードをもらう事ができたプレイヤーが勝ちです。
※親を決めずに、カードは場に山にして裏向きに置いておき、誰かが「10」を作ったたびにゲームを止めて皆で確認し、正しい場合は山からカードを2枚取るようにしてもいいですよ。

<3から15ルール> (9歳位～)

このゲームでは、目指す合計数が徐々に変わります。準備は通常ルールと同じです。(裏が青いカードを使います)

ゲームの手順

目指す合計数が「3」から始まり、次に「4」、「5」、「6」と増え、「15」に達するまで続けます。

「15」でゲームは終了し、一番多くカードを取ったプレイヤーが勝ちとなります。

またゲームを続行し合計数を「3」に戻す事もできます(つまり15, 14, 13...3まで減らしていきます)。このゲームは“Three-Fifteen and Three Again”(スリー フィフティーン アンド スリー アゲイン)と呼びます!

ポイント: 目指す合計数は、数値を加算するだけでなく、減算することによっても作ることができます。例えば、「3」は、「2」と「5」で作ることができます。(5-2=3)

<マキシマムルール> (9歳位～)

このゲームは、「10」を探すものではありません。同じ果物か同じ色を足して、合計数が一番大きくなる組み合わせを見つけます。

ゲームの準備

全てのカードを場に裏返しにして重ならないように置きます。一番年上の人、2枚のカードを選んで表にします。(ルールを簡単にするなら1枚、難しくするなら3枚を表にします)

ゲームの手順

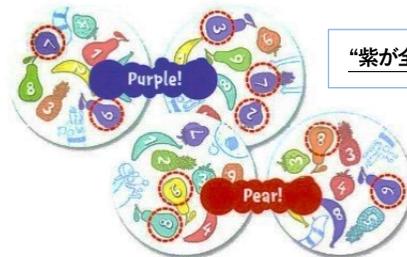
・全てのプレイヤーは、表になったカードから同じ果物か同じ色を足して、合計数が一番大きくなる組み合わせを探します。

・各プレイヤーはできるだけ早く、一番数が大きくなると思う組み合わせとその数をみんなに言います。(言えるチャンスは1人1回しかありません!)

・より大きい数を探してみんなに伝えましょう。自分の思っていた組み合わせを誰かに言われてしまったら、その回はパスします。

・一番数が大きくなる組み合わせを見つけたプレイヤーがこの回は勝ちとなり、表になっているカードを全部もらうことができます。

・場のカードが全部無くなる、もしくは1枚になった時点でゲームは終了となり、一番多くカードを取ったプレイヤーの勝ちです。



“紫が全部で25!”

“ナシが全部で34!”

《フルー5》 (フルーフアィブ)

裏が黄色のカードには、果物と1から4までの数が描かれていて、小さい子どもでも遊べるようになっています。遊び方は『フルー10』の基本ルールと同じで、2個以上の果物で合計5を作ります。



※(株)エルフガリールを理解しやすいように補足して訳しています。